

ISAF 年次会議報告

2014 年 11 月 11 日
国際委員会 田中正昭

スペイン マヨルカ島のパルマで開催された、ISAF 年次会議に出席してきましたので報告いたします。
今回は 10 月 20 日～31 日までアルゼンチンのサン・イシドロ市（ブエノスアイレス郊外の町）で開催されたオブティミスト・ディンギー世界選手権にジュリーとして参加した帰途、直接パルマに入りました。私の参加した委員会、行事は下記のとおり。

- 11 月 1 日 パルマ入り、レジストレーション、委員会の準備
- 2 日 午前 IJ サブコミティー (IJSC) 傍聴、午後は翌日の委員会のための準備
夜パルマ市長主催の歓迎レセプション
- 3 日 午前マッチレース委員会 (MRC) 傍聴、午後 IU サブコミティー (IUSC) 出席
- 4 日 終日レース・オフィシャルズ委員会 (ROC) 傍聴
夜 Rolex Sailor of the Year Award 晩さん会
- 5 日 午前レーシングルール委員会 (RRC) 傍聴、MNA フォーラム参加
夜 日本代表団会食
- 6 日 早朝パルマ発

1. IUSC

昨年は、MR G1 イベント激減の影響で IU としてのプリンシパル・イベント参加機会の減少が問題となっていること、新しいディシプリンとしてのフリートレース、メダルレースのアンパイアの可能性が議論されたことを報告しましたが、今年はその問題をさらに具体的に検討することが主要な議題となり、具体的な成果のあるよい会議になったと思います。

会議の概要

- 開会と委員長挨拶、訃報
この 1 年に亡くなった、元 IU2 名の方の訃報が報告され、黙とうがささげられた。これには石井正行さんも含めていただいた。
- イベント・アポイントメント
ISAF の ROC 傘下にはイベント・アポイントメント・ワーキング・パーティー (EAWP) というのがあって、ISAF がレースオフィシャルを指名する大会 (ISAF レギュレーション 25.8 参照) のレースオフィシャルを指名する WP である。昨年から MR でのアポイントの対象となる大会の減少とアポイントの偏在が問題となっており、今回 EAWP からレース・オフィシャルズ委員会 (ROC) に対して行う報告内容が IUSC で議論に付された。
 - ① 統計的報告：MR の 2014 年に関しては前年対比微減であったが、メダルレース、アンパイア制のフリートレースが増えていることが示された。
 - ② 「EAWP 運用規定」(EAWP Procedures) を策定し公表する。EAWP の目的
 - ・大会に対して適切な技能と経験を持ったレースオフィシャルのチームを供給する。ただし

チームには経験レベルの多様性も含むものとする。

- ・更なる向上を目指そうとし、またその能力のある（その評価は該当する小委員会が行う）レース・オフィシャルズに対して、経験を積むための機会を、合理的に可能な限り提供する。
- ・主催者に過大な費用負担をしない範囲で、別大陸からの一定割合の指名を含むことにより、地理的な一貫性や公平性を推進する。
- ・適切なレース・オフィシャルズのローテーションを確保する。

指名の手順

大会主催者からの要望リストをもとに、上記目的の観点から **EAWP** が見直しを行う。必要があれば **ROC** や各サブコミティーの長に個別メンバーの適性について相談する。そのうえで **EAWP** が決定したリストを、主催者、**MNA**、クラス協会等のステークホルダーと相談したうえで最終決定とする。

③ パフォーマンス・レビューの必要性

システムの運用には **RO** の評価が欠かせない。それは **EAWP** ではなく **ROC** と各 **SC** が担うべきものである。報告では、オリンピッククラスの世界選手権でチーフを務められるような「エリート **RO**」とそれに次ぐ高い潜在能力を持った **RO**、というようなランク分けを行うことが提言されている。今後メジャーな大会では、このような評価を行っていくためのパフォーマンス・レビューが行われることになる。

IUSC では **EAWP** の報告を支持することとした。

● IU グループینگ

グループینگはうまく機能しておらず、**2015** 年のグループینگ・プロセスは保留されたままである。昨年も多くのフィードバック要請（不満）が寄せられたが、適切にフィードバックを行えていない。グループینگ **WP** のメンバーが、単に当人と一緒にアンパイアを最近していないために同じグループینگにした、という場合が多い。申請者が **MR** を少ししかやっていない場合も多い。グループینگの在り方について引き続き検討することとし、今年度のグループینگは行わないこととなった。

● IU の要件 プリンシパル・イベント

ROC プリンシパル・イベント・ガイドラインの **IU** に関する事項について検討を行った。

- ・ 初任や再任の申請の際に、必要なプリンシパル・イベント数（**8** 回）で苦勞する事例が多くみられる。
- ・ 多くの経験深いアンパイアが、フリートレース（エクストリーム・シリーズ等）に進んでいる。フリートレース・アンパイアリングの重要性の高まりにより、新たなディシプリンとすることを検討する。
- ・ 現状のプリンシパル・イベントの要件について、数を減らすのではなく、プリンシパル・イベントの範囲を拡大する方向で検討する。

例えば

- ・算入できるフリートレース 1 回を 3 回とする。
- ・レベルの高い G3 イベント（NZL のナショナル選手権等）を L1 ランクにする。どのイベントを L1 とするか、IUSC で検討する。
- ・チームレースの L1、L2 イベントについて基準を設け特定しやすくする。

● IU マニュアル

フリートレース・アンパイアリングの重要性の高まり

MR、TR とは大きく異なるスキルが要求されること

以上から、WP を作りフリートレース IU マニュアルを作成することとなった。

● ストラテジー&ディベロップメント

RO パフォーマンス・レビューや IU グルーピングの件と関連するが、IU の新たなランク分けを検討する必要がある。

その中でコアとなる G1 レベルの IU の不足も認識されている。

ゆえに新しい IU の訓練と、既存の IU にたいする継続的訓練プログラムの実施が喫緊の課題であり、それについて具体的な議論が行われた。

来年については WMRT との間で、コア・アンパイアと位置付ける IU とディベロップング IU という位置づけをおこない、その組み合わせで指名を行っていく方向で協議している。

具体的には

- ・ WMRT の協力を得て訓練プログラムを実施する
- ・ WMRT は来年ツアーのうち 2 大会で訓練プログラムの試行に合意。うまく機能した場合には拡大する。
- ・ プログラム策定の WP が指名された
- ・ IUSC の予算を投入
- ・ TR や FR についても訓練プログラムを検討。座長が指名された。

2. その他委員会の傍聴報告

(1) マッチレース委員会

昨年の Nations Cup の報告の中で、日本がウラジオストックで行われたアジア予選を勝ってグランドファイナルで 4 位に入るといふ活躍を見せたことが注目された。

来年は Nations Cup の年で、グランドファイナルは 7 月 14 日～19 日ウラジオストックでの開催が決まっている。日本は従来オセアニア予選に入れられていたが、アジア予選参加の選択も可ということになった。（前回はオセアニア予選が中止となったための臨時措置であった。）

(2) レース・オフィシャルズ委員会（ROC）

- ・ 冒頭の訃報では、石井正行さんも含まれた。

これには John Doerr 氏が尽力してくれた。

- ・ RO ユニフォームのサプライヤー、Gill と交渉中
- ・ セミナーでのテストの結果は、MNA には通知しないことになった。
- ・ セミナー・インストラクターの新任があった。インストラクターの評価を行うことになった。
- ・ セミナーで試験に合格した RO 候補者に、経験を積ませるための旅費を補助する制度がある。昨年は 2 件しかなかった。
- ・ IU の再任の条件にナショナルレベルへの貢献という項目がある（レギュレーション 31.12.1i）が、これを全ディシプリンへも適用する方向で検討する。
- ・ 大会でのレファレンス・フォームに、タイムリミット（2 か月）を設ける。
- ・ EAWP “PROCEDURES” を公表し、透明性を高める。
- ・ IU グルーピングの今年度のサスペンドを了承。

2015 年半ばをめどに新たなシステムを検討する。

- ・ RO パフォーマンス・レビューが 2014 ユースオリンピックとサンタンデールで試行された。
- ・ セーラー・レップ・システムが 2014 SWC パルマ大会で試行された。
セーラーの代表を定め、レースオフィサーやジュリーのコース・チーフと議論を持つ接点とする。
初日ミーティングを持ち、大会中はレースオフィサーやジュリーがボート・パークを巡って話をしたとのことであった。

今後このシステムをどのようにしていくかについては聞き逃した。

- ・ Rule 42 WP 「Clearly」の語について検討をしたが、変える必要はないとの結論だった。
- ・ Jury Size WP では、主催者のコスト負担を減らすため、付則 N に定める「最低 5 名」という要件を、大会の規模やレベルによっては少なくすることを認めるという改定を検討しているとのことである。
- ・ Submission 154-14 規則 69 の改訂については、いろいろ議論がでた。
 - ・ Non-sailor のアクションで Sailor にペナルティーを課すことがよいのか？
法律家は可能と言っている
反対意見も根強い。サポーターへの制裁にするべき。
 - ・ 代理人・助言者を認めるのか？
 - ・ 「警告」にも報告を求める必要があるのか？
 - ・ 報告は MNA と同時に ISAF にも行くべきか
 今回は継続審議とし、今回出た論点を検討したうえで、再度来年の年次会議に諮る。

（3）MNA フォーラム

フォーラムとは、だれでも（クラス協会、MNA、委員会等々）ブースを設けて、訪れた人と、いわば「商談」をする機会・場のことです。

うろうろしていると、顔見知りのクラス協会の人から声をかけられ、ぜひプレゼンを見てくれなどと引っ張られたりします。

- ・ 420 協会では新しいオンライン・コーチング教材を紹介していました。すでにウェブサイトに「Exercise Book」というタイトルでアップされています。
- ・ IJSC では「National Judge Program Package」の紹介をしていました。